

令和4年度事業報告

1. 事業の実施に係る事項

1) 富士山に残されている天然林を保全、活用する事業

《事業》植生保護柵の点検・保全

《目的》国有林に設置した植生保護柵の点検、修復、植生復元状況調査など

《実施日》6/17・7/11・10/17

《内容》破損等の点検・倒木処理など

《事業》センサーカメラによる動物調査、食害調査、ナラ枯れ調査

《目的》動物の生息調査およびニホンジカの活動、ナラ枯れの進行状況の記録

《実施日》6/17・7/11・8/3

《内容》センサーカメラ回収・記録の分析、食害の目視調査、写真撮影による記録

《事業》樹皮防護ネット設置(御殿場小山ボーイスカウトと協働)

《目的》森の中で母樹となる樹木の樹皮をニホンジカの食害から保護する

《実施日》9/4

《内容》須山口周辺のキハダ20本以上にサプリガードを設置

参加者 34名

2) 富士山の森林で過去に失われた生物多様性を復元し、水源涵養力を保全するための事業

《事業》国有林の富士山クラブ西白塚ウラジロモミ人工林の混交林化計画
協定林全域の植物相調査を実施

《目的》人工林を天然林に復元するための実験

《実施日》9/29・10/8

《内容》15年前の植物相調査記録と比較することで協定林の間伐による効果を考察した
ナラ枯れにより、シンボルツリーであったミズナラの倒壊を記録

報告書「富士山クラブ西白塚協定林の植物相調査 ナラ枯れとミズナラの巨木」作成

3) 地域の環境教育に富士山の自然環境を活用する事業

《事業》御殿場市 富士山環境保全・教育推進事業

《目的》環境教育のための富士山の自然環境調査

《実施日》4/2・4/10・4/17・4/25・4/30・5/12・5/20・6/1・6/4・6/13・6/28・7/3・7/20
7/29・7/30・8/6・8/11・8/16・8/19・8/23・8/26・9/11・9/15・9/25・10/15
10/19・10/29・11/25・3/29(その他に佐藤氏独自で調査)

《内容》御殿場市内の麓から宝永火口までの環境及び標高に沿った植物相調査

《事業》 会員勉強会 蜘蛛の生息調査・植物調査・野鳥調査

《目的》 植生保護柵の効果を確認

《実施日》 7/30

《内容》 調査者・日本蜘蛛学会. 久保田克哉氏

元静岡県環境調査委員会植物部会会員 佐藤孝敏

日本野鳥の会 菅常雄氏

参加者 14名

4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

《事業》 ナラ枯れ調査

《目的》 ナラ枯れの現状をドローンと現地踏査により調査

《実施日》 9/6

《内容》 踏査およびドローンによるカシノナガキクイムシの被害状況を調査、前年と比較

《事業》 パネル展示・動画制作

《目的》 富士山の自然環境保全の啓発

《実施日》 6/10・7/3・10/23

《内容》 6/10 ecoまつりに参加(パネル展示)

7/3 ふらっと展に参加(パネル展示)

10/23 玉穂地区中畑南区文化祭に参加(パネル展示)

《事業》 自然観察ガイドブック「富士山御殿場口の自然観察」改訂版 2,000部作成

《内容》 小学生以上を対象とした御殿場口での自然観察ガイドブック

※ 活動の中で作成した冊子・報告書はホームページで公開している。

2. 総括

富士山の森林はニホンジカの食害による樹木の立ち枯れ、林床植物の消失に加えてカシノナガキクイムシの大発生によりミズナラの大量枯死が発生するなど、大きな変化が進んでいる。その変化の記録は、今後の富士山の環境保全に資することができると確信している。